

2019年5月

【月報】

ブロイラー農場で粳米 60%飼料の給与効果を実証

当センターでは、肉用鶏に粳米 60%配合飼料を肉用鶏に与えると、食中毒細菌であるカンピロバクターの鶏への感染が抑制される研究成果を上げています。

今回、府内の鶏肉流通業者から「カンピロバクターに感染していない鶏肉を生産・流通したい」との要望を受け、タスクチーム活動※により大型ブロイラー農場で実証を行いました。

ブロイラー2万羽に与える粳米の量は60トンにのぼり、調達から保管場所の確保、飼料の配合方法など多くの課題に関

係者一丸となり取り組みました。

その結果、トウモロコシ主体の通常飼料区ではカンピロバクターの感染を認めましたが、粳米飼料区では感染せず、出荷時の発育にも差がないことを確認しました。

今後実証時に生じた課題を整理し、普及につなげていきます。

※タスクチーム活動

研究機関と普及組織が一体となり、研究成果を現地で速やかに定着させる活動



出荷直前の鶏舎内の様子。粳米 60%飼料区（左）通常飼料区（右）も同様に発育
畜産センター

【管内情報】

乳牛の飼料用イタリアンライグラス収穫を終了

昨年 10 月に播種したイタリアンライグラスの収穫が 5 月 14 日に終了し、今年度は平年の概ね倍にあたる約 140 トンを収穫しました。

増収要因として、① 圃場ごとに生育速度が異なる品種（10 種類）を栽培するとともに、4 月から 5 月にかけて天候に恵まれ生育適期に刈取りが出来たこと、② シカやイノシシによる食害対策として、主要な圃場に侵入防止用柵の設置を試みたことなどが考えられます。

今後播種予定のトウモロコシなどの夏作物も、条件に応じた栽培管理に努め、

良質な自給飼料を飼養している 50 頭の乳牛に年間を通じて与えていきます。



トラクターによる刈取り



野生鳥獣侵入防止柵を設置



作成したラップサイレージ

畜産センター

繁殖雌牛預託事業の開始

当場では、平成 28 年度から農家が飼養する長期不受胎牛※を預かり、運動場での適度な運動と休養に加え、集中的な繁殖治療などを行って受胎させた後、農家に返却する「繁殖雌牛預託事業」を実施しています。

昨年度は 10 戸から 16 頭の長期不受胎牛を預かり、14 頭の受胎に成功するなど、農家から大変好評でした。

今年度も 5 月 16 日から導入を開始しました。11 月末の受託期間終了まで随時導入をおこない、農家からの期待に応えていきます。

※ 長期不受胎牛：分娩後概ね 100 日以上の長期にわたって妊娠しないため生産性が非常に低い雌牛



5 月に導入された預託牛

畜産センター 碓高原牧場

今年度新たな乳用育成牛を導入

当場では、毎年、春先に府内の酪農家から乳用子牛を受け入れ、放牧しながら育成し、和牛受精卵を移植して、秋に農家へお返しする乳用育成牛譲渡事業を実施しています。

今年度も受入可能頭数を上回る希望があったことから、3月下旬に山城から丹後まで13戸の酪農家を巡回し現地調査を行って受け入れる31頭を選定し、5月8日～15日に搬入しました。

放牧を取り入れて育成することで、強健生や粗飼料利用性、抗病性が高まる事が知られています。引き続き当場の強みである28haの放牧場をフル活用し、丈夫

で長持ちする乳用育成牛の供給を通じて京都府酪農を支援していきます。



乳用育成牛をトラックへ誘導
畜産センター碓高原牧場

今年度も牧草のシーズン到来

碓高原牧場では、55ha（甲子園14個分）の採草放牧地があり、うち約20haの採草地で、オーチャードグラスなど3種類のイネ科牧草を混合して同時に播種し、栽培しています。

今年度は、春先の低温で牧草の生長が遅れましたが、平年並みに収穫適期を迎え、5月13日に1番草の刈り取りを開始、6月3日に終了しました。1番草で201個（約80トン）のロールサイレージが作成でき、昨年を上回る収穫がありました。今後、秋までに刈り取りを3～4回行って、年間通じて家畜に給与する良質な自給飼料を確保します。



トラクターによる刈り取った牧草の収草



作成したラップサイレージ
畜産センター碓高原牧場